

ぱびるす

聖学院大学総合図書館

第38号 (2004年4月) 新入生歓迎号

パピルスの香り

遠山 益

パピルスに香りが有るか無いかはさておき、パピルスとはどんな植物か、大方の読者はご存知ないであろうから、このことから話を始めよう。

古代エジプトでは、パピルス (papyrus) から筆写材料をつくったことから、パピルスが英語の紙 paper の語源になったことは誰でも知っている。しかし、パピルスがどんな植物かを見たことのある人は多くはないだろう。近年では、サンルームや温室内などで、観賞用の鉢植えとして、パピルスが栽培されることもあるので、これを見た人があるかもしれないが、自然界のパピルスの大群落を見た経験をもつ人は稀であろう。

パピルスは和名をカミガヤツリ、学名を *Cyperus papyrus* という。私たちの身の周りにも沢山見られるカヤツリグサ科の1種である。カヤツリグサ科はイネ科やラン科などに比較しうる大きな科で、70属4,500種もあって、世界中に広く分布する。その中でもカヤツリグサ属 *Cyperus* は、熱帯から温帯にかけて生育する大きな属で、約500種あって、主に湿地に生育する。日本には33種が自生している。

カヤツリグサ科は一年生が多いが、パピルスのように根茎をもった多年生のものもある。珍しいことに、茎の断面は三角形であるから、外見は三稜形である。根茎から茎が密生し、高さが2~5mにもなる。葉は退化して、茎の基部に鞘と残っている。現在でも、パピルスはナイル川の上流地方 (スーダン、白ナイル地域) の河畔や沼沢地に大群落をつくって繁茂する。

パピルスから筆写材料をつくるのに、古代エジプトでは、緑色の茎の皮を剥いで除き、内部の白色の髓を採る。これを細く裂いて、必要な長さに切り、縦横に編んでゆく。これに重しをのせて薄く平らにする。その後、その表面を石や貝殻で擦って滑らかにする。これがパピルス紙である。

パピルス紙やそれを張り合わせた巻き物に、絵

や文字を書いた古代文化遺産が欧州各地の博物館に残っている。大英博物館でそれを見たことがある。また、古代エジプトでは、パピルスの茎で南米のトトラ・ボートのようなパピルス船を作ったという記録や、衣類を編んだり、太い根茎を燃料にしたとの記録も残っている。

上の記述から、パピルスが芳香をもつ植物でないことは容易に想像されよう。しかし、ペーパーに情報を盛り込んだ書籍には、各種各様の匂いが染み込んでいる。例えば、新書には印刷や製本の過程の匂い、これを利用した人の匂い、書斎の匂い、風通しの悪い薄暗い部屋に長年積み上げた古書のカビ臭などである。

これから述べる匂いは、化学的・生物的な匂いではなく、メンタルな匂いである。1974年東京教育大学が筑波に移転する際に、私は *The Encyclopaedia Britannica* (11版) の1セット29巻を譲り受けた。というよりも引き取ったというのが正しい。これらは正にトラックに積まれて、夢の島の廃棄物場に捨てられるところであった。

Britannica の初版は3巻で、1768年発行であるから、わが国では江戸時代の中頃である。手許にある11版は1910年発行でA4判牛皮装丁である。牛皮の脂は抜け去って、表面の凸部は少し禿げてはいるが、書名の金文字も、4匹のライオンのシンボルマークの金色も健全である。

明治、大正、昭和の3代約100年所蔵されたこれらを、綺羅星の如く在職された著名学者先生たちが、読んだであろう。近年になっては、務台理作、福原麟太郎両先生をはじめ、多くの研究者が閲読したと思われる。この *Britannica* から放散する芳香を嗅いでいると、次第に落ち着きを取り戻し、世事の末梢の問題など忘れて、意気軒昂として前進したい気分になる。アカデミズムという香りが溢れんばかりに染み込んだ全29巻を座右において、いま私はこれらを参考図書の一つとし、この香りを心行くばかり吸いながら、古代ギリシャから今日までの「生命科学史」を執筆中である。

(2004年3月末まで人間福祉学科教授)

将来への展望 - 描く人間像 -

人文学部児童学科 窪田 恭子

大学に入学し、4年間の在学期間を終了すれば、新しい社会へと巣立ち行くことになる。在学期間中に、将来自分が新しい社会において、どのように活動し、生きていこうとするのか、その人間像を描いているだろうか。将来のことを見通して、今、在学している自分にとって大切なことは、何なのか、何をすべきなのか、自分に問うてほしい。勉学することは当然であるが、自分を高め、豊かにしていくには、何をすべきか。

その問いに対しては、読書が大きな位置を占めるものであろう。読書は一人で行える。本の中に自分を投入できる。また少し離れて客観的な見方もできる。本を読む時、本を読む場も自分なりに設定することができる。そしてそれは、読む本の種類にもよるものであると思う。

ある人が、駅から大学にくる道を歩きながら、本を読むというのである。歩きながらの読書は、どんな本を読んでいるのだろうか、疑問に思ったのである。また最近、カヌーで川下りをしている人が、夜、河原にテントを張り、その中でランプをともし、読書をするという。静寂な河原で、川の流れる音を聞きながらの読書は、さぞその本の中に没頭できるのではないだろうか。少々うらやましい気がする。

前述したように、その人なりの読み方は、いろいろである。多くの本をスピードをだして読み上げる場合や、一冊の本をゆっくりと時間をかけて読む場合、選んだ本を大切に思い、想いをめぐらしながら楽しく読む場合など、さまざまである。読書は、早く多くの本を読みこなせば、成果がある、というものではない。読書の結果、身についたことは、目に見えるものではない。内面に大切に持っているものであり、それが外部に出る時は、多くの面で多くの機会において、その人の持っている持ち味として表れるものである。それが、その人の人間性にほかならない。

読書は、自分が主体になってやらねばならない。故に、自分の身につくものであり、ものの見方、感じ方、考え方を培うことになる。そして本は、先人達が残してくれた大きな文化遺産である。人間が人間として成長し、人格が形成されて

いくには、その文化遺産を継承し、発展させていくことにほかならない。

大学の在学期間中に、自分がどのように本と向き合い、自分のものとして身につけていこうとするかにより、新しい社会に、いかに生きていこうとするかということにつながっていくものと思う。それを可能にする場は、図書館である。大学の図書館は、一番身近にある。

図書館は、文化遺産の宝庫であり、知識を得ることができる宝庫である、そしてそれを大いに活用し、自分の中身を豊かにしていかなければならない。在学中に図書館を利用し、将来、自分が目指す人間像の実現に向けて、充実した読書習慣を身につけてほしい。

(2004年3月末まで児童学科教授)

「出会い、会話すること」

101DC005 原田 貴士

私が書物にふれる喜びを知ったのは、戦後の作家坂口安吾との出会いまでさかのぼります。私が高校三年生の頃の衝撃的な出会いでした。本の中の彼は高校生の私にむかって多くを語り、時には泣き叫びつつ、全てのものをさらけ出していました。私もまた彼の声を聞こうとして本にかじりつき、悩み、多くのものを問い返しました。本を読むことで交わした彼との会話から、私は何らかのエネルギーと自信、そして大きな喜びを得ていました。彼との出会いから十年が過ぎ、私の坂口安吾に対する評価は当時と微妙に異なります。しかし今でも彼の抱えた苦悩は私を揺さぶり、彼の流した涙が心を打つことに変わりはありません。

大学に入学してから、私の書物にふれて会話する喜びは一層広まっていきました。それは私自身の本にふれたいという欲求のほかに、多くの友人との会話や先生方の指導によって新たな視点が開かれていったことも大きいでしょう。同じ関心を持つ人たちから受ける刺激は強く有益です。そしてじっさいにふれた夏目漱石、ゲーテ、シェイクスピア、ダンテ、ウェルギリウス。さまざまな研究書。卒業研究ではヨーロッパ史の研究を通じて人間の躍動する力に圧倒されました。これらの時代と地域を越えた会話は私の財産であり、もしかしたら人生の選択の知られざる導き手だったのか

もしれません。私はいまラテン語の文献をひもといて古代ヨーロッパの歴史を研究していますが、当時の人たちが何に喜びを見だし、何に苦しんでいたかを感じるのは容易ではありません。色々なところでつまずき、挫折し、落ち込むこともしばしばです。しかしその困難な長い道のりにもかかわらず、彼らの気持ちが理解できた時の喜びは大きいものです。

何に惹かれるかというのは人それぞれ違います。私は文章でしたが、それが絵画や建築の美しさであれ、音楽の広がりであれ、理解して得られる喜びは同じくすばらしいと思っています。たぶん漫画でも良いのでしょう。作品の奥に何かを伝えようとする人がいて、それを理解しようとする人がいれば、そこには自然と会話や理解が生まれるものです。大学は多くの人間と出会い、多くのことを学ぶところです。そして大学で学ぶことを通じ、何かの感動に出会うでしょう。この出会いが一番大切なことだろうと、私は強く思っています。

(アメリカ・ヨーロッパ文化研究科(博士後期課程))

これからの図書館 「9つのコンセプト」

図書館では、学生・院生をはじめ利用者の皆さんにとってよりよい空間とサービスを提供することを目標に活動しています。活動の主な方針として「9つのコンセプト」を作りました。

1. 知的でクリエイティブな学生生活を送るための拠点としての快適空間の創出
2. 学ぶためのモチベーションサポート
3. 学生個人の興味やレベルに合わせたラーニングセンター機能
4. 学術情報の流通・検索が的確に行える機能の実現
5. マルチメディア社会に対応できる体制作り
6. 授業への積極的な貢献
7. 生涯にわたる知的活動を支援する体制作り
8. 聖学院大学からの情報の発信
9. 学内情報の流通の基盤とシステムの安定的供給

極私的「図書館の誘惑」

100J033 栗原 岳士

図書館は大学・市立問わず頻繁に利用している。なので、自分にとって図書館はコンビニやレンタルビデオ屋と同じような認識である。有効な利用法もだいたい分かってしまっているつもり。

要するに自分にとって図書館はごく日常的な施設であるということなのだ。別に図書館利用頻度の自慢ではない。だいたい、借りている書物が旅行ガイドやサブカルチャー本など、7割方が娯楽目的なので自慢してみたところで何の得にもならない。却って「もっと良書を読むために使え」とどやされてしまいそうである。

ただ、あまり身近になりすぎるのもどうも面白くないかもしれない、と最近感じ始めている。と言うのは、小学校の時分、図書室での形容し難い好奇心・高揚感を近頃経験していないからである。

小学校の頃は当然自分が小さかったせいもあるが、図書室というものがある種の異空間に感じられたのである。膨大な量のハードカバーの書籍、それが詰め込まれた何棟も規則的に連なる書棚、それから校内で唯一敷かれている絨毯等の備品に加え、休み時間以外は基本的に閉鎖なので常に暗く埃っぽい。その上、並べられている書物が江戸川乱歩シリーズで怪人二十面相と思われるマスクの背表紙だったりする。

自分にとってはこれらの小道具が図書室に足を向かわせる要因になっていた。つまり、図書館に足を踏み入れるのは冒険だったのだ。誰もいない部屋でたくさんの書物が息を潜めている空間は、実に不可解で探検欲を掻き立てるものだったのだ。だから、読書をするのと十分に心躍る刺激的な娯楽とを同時に満喫していたのだ。

年齢と図書館利用を重ねるにつれて、このような感覚は乏しくなっている。それでは面白くないので、図書館も入り口に甲斐庄楠音の女性画なんかをでっかく掲げたりしてもらいたい。

でも、そうすると利用者が激減して予算が減らされそうなので、提言せずに自分の頭の中だけに留めておくことにする。

(日本文化学科)

私の好きな場所

100W034 金 明 順

新入生のみなさま、留学生のみなさま、ご入学おめでとうございます。私は中国からの留学生で聖学院大学人間福祉学科で四年間勉強してきました。卒業間近になった今「本当に聖学院大学にきて良かった」という感想を強くしています。聖学院大学での四年間、私にはたくさんの出会いがありました。たくさんの素晴らしい先生たち、たくさんの温かい友達、そして中でも大事な出会いの一つは図書館との出会いでした。振りかえって見ると本当に長い時間を図書館で過ごしていました。

図書館は大学で一番好きな、大事な場所でした。とても心地よい場所で、家より勉強しやすいという面もありました。正月など図書館が長い休みの間は勉強する場所がなくて困っていたことも思い出します。

図書館で私はたくさんの本を読みました。キリスト信者ですので、神学についての本をよく読みました。そしてビデオもよく見ました。タイトルが神学と関係のないビデオでも、神様の影を大きく表しているビデオが多くありました。図書館で静かな心になり、本を読んだり、ビデオを見ながら感動の涙を流し、たくさんの勇気と力をもらいました。ほかにもリクエスト制度や他大学の図書館の必要な資料を複写する制度も役に立ちました。

また図書館は私たち一人一人が変えることができる場所でもありました。図書館は静かな場所ではないとの考えから、私達、留学生は課長さんとお話し合いをしたりしました。努力の結果、今はだいぶ静かになった気がします。壁に貼られている「静粛」の掲示を見ると、図書館は先生方が利用のルールを決める場所でもあるが、私達の意見でも変えられることを実感します。

私は大学院へ進学することとなりました。図書館という友がいたからこそその結果だと思えます。新入生のみなさん、留学生のみなさん、ぜひ図書館といい友となり、図書館に秘められている宝を見つけてください。そして卒業するころには、豊かな収穫を得たみなさんとなっていることを願っています。

(人間福祉学科)

図書館雑感

101C001 青 木 一 寿

今回『ぱびるす第38号』の原稿を書かせて頂く機会を得、聖学院大学総合図書館を利用しての、感想を書きたいと思います。

今や大学の図書館は、私にとって、なくてはならない存在になっています。空き時間や講義が早く終了したときなど、図書館に来ては「何か本はないかなあ」と探しています。その気軽さは、自分の部屋にいるときのようでもあります。今では、大学での自分の居場所が、図書館になっています。

私がこの図書館をよく利用する理由が2つあります。1つは【リクエスト】です。読みたい本をリクエストすると大学の図書館ではほぼ全て購入してもらえます。まれに、大学図書館に相応しくない図書などは、断られてしまうようですが。しかし、図書に費やすお金があまりない私にとって、この制度はとてもありがたいです。2つ目は【パソコン】です。ノートパソコンの館内での貸し出しが始まりました。館内では、無線LANの設備が整っているので、インターネットも利用することができます。パソコン室が利用できないときなど、とても便利です。

今、私は幼稚園教諭・保育士の資格取得と平行に図書館情報学課程の履修をし、図書館司書資格を取得したいと考えています。今までは、ただ単に図書館を利用してきました。しかし、図書館情報学課程を履修することで、どのようにしたら、いち早く目的の図書を見つけ出すことができるかなど、考えながら図書館を利用するようになりました。

大学生になるまでは、学校の図書館(室)を始め、公共図書館にも、まったくといっていいほど利用していませんでした。しかし、大学生になり図書館で多くの図書に触れることで、自分の知識が豊かになっていくことを、今更ながら知ることができました。その意味でも、図書館と仲良くなれたことはとても良かったです。

(児童学科)

聖学院学生の読書傾向

(2003年度1月までのベストリーダーより)

どの本が一番多く読まれているかということは貸出し回数だけでは判断できないが、貸出し期間が1日の参考図書では英和辞典等の語学辞典類が群をぬいている。ついで日本十進分類法、ポケット六法、朝日新聞戦後見出しデータベースの順。

貸出し期間2週間の一般書のトップを飾ったのは聖書。皆1冊は持っているはずであるから、図書館を利用するのは授業やテストのためであろう。素直に喜んでいいものやら複雑な思いである。

茅田砂胡の「スカーレット・ウィザード」、「暁の天使たち」、「デルフィニア戦記」が圧倒的な支持を受けている。いずれも多巻ものでシリーズを読破しようという読者の皆さんには敬意を表する。「ハリー・ポッター」も健闘し、「炎のゴブレット」が上下巻で20回以上の貸出した。「ダレン・シャン」はまだ全巻完結していないからまだまだこれからも利用は増えるであろう。栗本薫の「グイン・サーガ」もあいかわらず根強い人気がある。単行本では唯川恵の「肩ごしの恋人」、「ゆうべ、もう恋なんかしないと誓った」、江国香織の「泳ぐのに、安全でも適切でもありません」が上位に顔をだしている。いずれもリクエストで購入された図書でリクエスト制度が有効に利用されている。

小説以外のベストリーダー

「自殺って言えなかった」(サンマーク)

「みんなの日本語 教え方の手引き」

(スリーエー)

「みんなの日本語 初級」(スリーエー)

「パスカル」(世界の名著24:中央公論社)

「虐待:沈黙を破った母親たち」(岩波書店)

「子ども虐待の福祉学」(小学館)

「人権とは何か」(第三文明社)

「ピューリタン」(中公新書:中央公論社)

「保育実習」(全国社会福祉協議会)

絵本のベストリーダー

「かいじゅうたちのいるところ」(富山房)

「100万回生きたねこ」(講談社)

「どろんこハリー」(福音館)

「ねずみ君のチョコッキ」(ポプラ社)

みんなが読んでいて本でなくてもいい...

あなただけの愛読書を見つけて...(S.H.)

韓国からのお客様来館



11月26日(水)韓国から崔雲祥現 延世大学校国際学大学院教授、申奎浩 聖潔大学校副総長、千昊載 啓明大学校日本語文学科長の3人のお客様が図書館に立ち寄られました。館内を阿久戸学長と回られ、ドイツ語の神学文献を集めたミューラー文庫などをご覧になった後、聖潔大学校から寄贈を受けた韓国語の「聖書大講解」の並ぶ書架へご案内しました。同校の申先生(写真左)はとても喜ばれ、本の前で阿久戸学長と共にポーズをとって下さいました。

和雑誌の並び順が五十音順に!!

今まで、和雑誌はタイトルのアルファベット順に並んでいましたが、2004年3月から2階・3階・4階のすべての和雑誌が「アイウエオ順」になり、探しやすくなりました。

ライブラリー・アシスタント募集

図書館では授業期間中のアルバイトとして「ライブラリー・アシスタント(夜間/土曜日要員)」と「ライブラリー・アシスタント(貸出用PCケア要員)」をそれぞれ若干名、募集しています。

各業務についての詳細、応募基準につきましては、図書館カウンターへお問い合わせください。

申込み締切 2004年4月6日(火)17時

*履歴書(志望動機付)を持参ください。勤務可能日または時間を記入していただきます。

図書館ツアーとオリエンテーション受付中

図書館内を案内する「図書館ツアー(新入生向け)」、図書館のデータベースやサービスについて案内する「図書館オリエンテーション」を実施しています。図書館を活用して豊かな学生生活を送りましょう。(希望者は図書館カウンターまで)

図書館の統計

I 図書館の推移

| 区分 年度 | 学生数 人 | 蔵書数 冊 | 年間受入冊数 冊 | 開館日数 日 | 貸出冊数 千冊 | 図書費 千円 |
|----------|----------|----------|-------------|-----------|------------|-----------|
| 2003 | 2,929 | 218,004 | 3,325 | 232 | 17.6 | 30,344 |
| 2002 | 2,931 | 214,826 | 3,364 | 271 | 18.4 | 33,805 |
| 2001 | 2,825 | 210,899 | 4,969 | 275 | 21.0 | 34,745 |
| 2000 | 2,549 | 205,652 | 4,479 | 274 | 18.0 | 35,805 |
| 1999 | 2,220 | 201,879 | 3,779 | 281 | 14.1 | 28,000 |
| 1995 | 2,137 | 163,506 | 13,438 | 271 | 21.5 | 39,700 |
| 1990 | 1,769 | 96,752 | 8,195 | 280 | 11.8 | 22,650 |
| 1985 | 1,005 | 51,000 | 5,043 | 284 | 10.1 | 12,399 |
| 1980 | 877 | 36,000 | 2,599 | 236 | 6.8 | 7,588 |
| 1975 | 763 | 22,000 | 4,265 | 183 | 3.5 | 3,754 |
| 1970 | 440 | 14,000 | 1,296 | 239 | 2.1 | 1,340 |
| 1968 | 256 | 10,000 | 2,838 | [247] | [1.4] | [1380] |
| 1967 | 125 | 7,000 | | [247] | [1.4] | [1380] |

II 蔵書冊数 (2004年1月31日現在)

| | 和書 | 洋書 | 合計 |
|---------------|---------|--------|---------|
| 総記 | 7,559 | 1,408 | 8,967 |
| 哲学・宗教 | 16,117 | 15,001 | 31,118 |
| 歴史・地理 | 12,979 | 2,877 | 15,856 |
| 社会科学(含教育学・福祉) | 59,896 | 19,234 | 79,130 |
| 自然科学(含医学) | 7,722 | 1,326 | 9,048 |
| 工学(含家事) | 4,295 | 481 | 4,776 |
| 産業 | 3,329 | 418 | 3,747 |
| 芸術(含楽譜) | 6,004 | 855 | 6,859 |
| 語学 | 8,563 | 2,763 | 11,326 |
| 文学 | 32,954 | 13,188 | 46,142 |
| その他 | 254 | 781 | 1,035 |
| 合計 | 159,672 | 58,332 | 218,004 |

III その他の資料 (2004年1月31日現在)

| | | | |
|-------------|--------|------------|-------|
| 絵本・文庫他(和書) | 23,166 | マイクロ資料 | 4,730 |
| 絵本・文庫他(洋書) | 1,198 | カセットテープ | 1,233 |
| 和雑誌(紀要・寄贈含) | 485 | ビデオ・LD・DVD | 2,095 |
| 洋雑誌(寄贈含) | 162 | CD | 708 |
| スライド | 34 | CD-ROM | 178 |

IV 館外貸出冊数(図書): 分類別 (2003年4月1日~2004年1月31日) 学生・院生・履修生のみ

| | 和書 | 洋書 | 合計 |
|---------------|--------|-----|--------|
| 総記 | 470 | 1 | 471 |
| 哲学・宗教 | 1,830 | 76 | 1,906 |
| 歴史・地理 | 967 | 2 | 969 |
| 社会科学(含教育学・福祉) | 6,984 | 9 | 6,993 |
| 自然科学(含医学) | 871 | 0 | 871 |
| 工学(含家事) | 296 | 1 | 297 |
| 産業 | 246 | 0 | 246 |
| 芸術(含楽譜) | 821 | 1 | 822 |
| 語学 | 1,364 | 8 | 1,372 |
| 文学 | 2,956 | 24 | 2,980 |
| その他 | 645 | 25 | 670 |
| 合計 | 17,450 | 147 | 17,597 |

V その他(他館との協力等) (2003年4月1日~2004年1月31日現在)

| | | | |
|-------|-------------|-----------|-------|
| 資料借用 | 133(内学生26) | 視聴覚室利用 | 2,611 |
| 資料貸出 | 32 | 特別閲覧室利用 | 106 |
| 複写受付 | 89 | 館内ノートPC貸出 | 3,785 |
| 複写依頼 | 330(内学生104) | 文献検索 | 44 |
| 紹介状発行 | 21(内学生3) | | |
| 紹介状受付 | 2 | | |

VI 館外貸出冊数・学科・学年別 (2003年4月1日~2004年1月31日現在)

| | 図書合計 | 雑誌・紀要 | 紙芝居 | CD-ROM | カセット | CD |
|----------|--------|-------|-----|--------|------|-----|
| 院・政策2年 | 96 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 院・政策1年 | 115 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 院・ア2年 | 154 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 院・ア1年 | 25 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 院・後期3年 | 113 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 院・後期2年 | 179 | 22 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 院・後期1年 | 79 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 院・科目等 | 24 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 院小計 | 785 | 34 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 政治経済4年 | 530 | 4 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 政治経済3年 | 1,115 | 71 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 政治経済2年 | 310 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 政治経済1年 | 309 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| コミュニティ4年 | 190 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| コミュニティ3年 | 710 | 7 | 5 | 0 | 0 | 1 |
| コミュニティ2年 | 267 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| コミュニティ1年 | 176 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 欧米文化4年 | 645 | 9 | 0 | 0 | 2 | 1 |
| 欧米文化3年 | 947 | 21 | 0 | 0 | 5 | 10 |
| 欧米文化2年 | 895 | 41 | 0 | 1 | 4 | 6 |
| 欧米文化1年 | 394 | 31 | 0 | 1 | 6 | 4 |
| 日本文化4年 | 818 | 21 | 0 | 0 | 2 | 19 |
| 日本文化3年 | 841 | 4 | 0 | 0 | 2 | 15 |
| 日本文化2年 | 744 | 18 | 0 | 0 | 1 | 7 |
| 日本文化1年 | 686 | 11 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 児童4年 | 844 | 20 | 29 | 3 | 0 | 12 |
| 児童3年 | 1,087 | 15 | 11 | 3 | 0 | 1 |
| 児童2年 | 1,757 | 6 | 1 | 1 | 0 | 9 |
| 児童1年 | 371 | 16 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 人間福祉4年 | 963 | 31 | 0 | 3 | 0 | 1 |
| 人間福祉3年 | 977 | 45 | 0 | 0 | 1 | 22 |
| 人間福祉2年 | 635 | 33 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 人間福祉1年 | 445 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 科目等履修 | 156 | 5 | 0 | 0 | 1 | 4 |
| 大学小計 | 16,812 | 419 | 46 | 14 | 26 | 121 |
| 合計 | 17,597 | 453 | 46 | 17 | 26 | 124 |

発行・編集 聖学院大学総合図書館
 〒362 8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号
 電話 048 725 5461 FAX 048 780 1096
 E-mail : lib@seigakuin-univ.ac.jp
 URL : http://www.seigakuin-univ.ac.jp/scr/lib.asp